スクールホットライン

六年生に感謝と祝福を

from志水小学校

> 中学校へ行ったら、苦手な数学をがんばります。
> 小学校で学んだことを生かして力いっぱいがんばります。
> 勉強と部活を両立します。

これは、六年生の決意の言葉です。志水小学校では、三月一日に「六年生を送る会」を行いました。ステージの上で中学校に向けての決意を発表する六年生一人一人に、下級生の温かな拍手が送られ、全校が一つになって会がスタートしました。

前半は、学年ごとの発表でした。三年生は、「明日はきっといい日になる」の歌に合わせてダンスを踊り、最後のアカペラは、六年生にとって素敵なエールとなりました。二年生は、「サンキュー。」に合わせ、かわいらしいダンスを披露しました。ランドセルから「ありがとう」のメッセージが現れるサプライズが。一年生は、「たいせつなともだち」を替え歌にして、大きな歌声で感謝の気持ちを伝えました。四年生は、「六年生とのお別れは悲しいけれど、踊って盛り上げます」と「恋」ダンス。男子も女子もリズムに乗って踊る姿は、みんなの視線を釘づけにしました。五年生は、六年間を振り返られるよう「思い出のアルバム」をスライドにしました。六年生は、幼いころの自分や友達の姿を見て懐かしさを感じるとともに、成長した自分を改めて感じたことでしょう。二部合唱「絆」の歌声は、さすが高学年と思わせるものでした。

最後に六年生から、それぞれの学年に励ましのメッセージが贈られ、「あなたに会えて…」を合唱しました。美しいハーモニーに、六年生との思い出がよみがえりました。

六年生から五年生に、校旗・通学団の団旗・手作りの雑巾を引き継ぐ会も行いました。この会を成功させるために、会場の準備や司会進行など、がんばった五年生は、六年生からのバトンをしっかりと受け継ぎました。

六年生には、下級生の感謝の気持ちや祝福が伝わったことと思います。中学校での活躍を応援しています。

まなびすと

私の航空史

岡野允俊

小牧飛行場の建設（1）

昭和十五年、戦争の長期化が予想されるに伴い、航空機工場をかかえ、それを支える数多の企業が密集している東海地方に、それらの工場を敵機の空襲から守るために防空飛行場が必要であり、空襲を受けた際の迎撃、追撃用基地の必要性が認められていた。それには飛行機の離発着にも気象条件がよく、また平地で建設工事が容易であり、労働力を確保できるなど立地条件の良い小牧飛行場（現名古屋空港）が計画されていた。

昭和十六年、太平洋戦争が始まると帝国陸海軍の破竹の勢いに圧倒され防空という意識はやや薄らいでいた。そこへ昭和十七年四月十八日、真珠湾のお返しと銘打ってアメリカ陸軍ドウリットル爆撃隊のB-25が日本本土の空襲に飛来し、東京、名古屋、神戸に投弾して中国大陸へ抜けていった。この時名古屋へは二機が侵入、爆弾を落としていった。私は中学二年生の学校帰りにこれに遭遇、ちょうど頭上で同機の爆弾倉庫が開き、黒い塊が数個落ちていった。思わず土手にしばらく伏せていたが何事もないようなのでおもむろに顔を上げ、立ち上がった。飛行機は名古屋港の三菱の方に飛んでいった。こんなに簡単に敵機の侵入を許したことに陸海軍はあわてた。この青天の霹靂のような事態に先に計画されていた「小牧飛行場」建設が急きょ具体化し、わずか一週間で七十四万坪の農地を強制的に買い上げ急ピッチで建設作業が進んでいった。

今月号から、岡野允俊さんの「私の航空史」をお届けします。岡野允俊さんは、本町内の三菱重工業小牧南工場の草創期から長年勤められ、定年退職後は工場に隣接している史料室の室長を二十年以上勤められました。

岡野允俊（おかの みつとし）氏 略歴

昭和４年生まれ。19年、中学４年生在学時、学徒動員される。20年８月、訓練半ばにして終戦、復学。29年、三菱重工業　名古屋航空機製作所に入社、小牧南工場勤務。63年、定年退職。平成２年から25年まで、三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所史料室長。小牧市在住。